

2011/8/28

弟子の掟⑧

弟子の掟①～⑦

- ① ファリサイ人にまさる義を目指す
- ② 人間関係はすべてに優先する
- ③ 弱者の立場に立つ
- ④ 神と人に対して誠実である
- ⑤ 不公平を喜んで受け入れる
- ⑥ 敵に対してこそ親切にする
- ⑦ 天の父からの報いを求める

マタイ福音書6章12,14-15節

12 わたしたちの負い目を赦してください、
わたしたちも自分に負い目のある人を
赦しましたように。

14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがた
の天の父もあなたがたの過ちをお赦し
になる。

15 しかし、もし人を赦さないなら、あな
たがたの父もあなたがたの過ちをお赦
しにならない。

赦されるために赦しなさい

- ◎ 自分に負い目のある人を赦したので、私たちの負い目を赦して下さい＜主の祈り＞
 - 大きな負債を赦してもらうために小さな負債を赦す
- ◎ 人の過ちを赦さなければ、天の父に自分の過ちを赦していただけない
 - 「過ち」とは故意・過失に関係なく規則を破ることを意味する言葉
 - 人の過ちを赦すことが赦される条件である

旧約聖書における「赦し」

- ◎ 旧約聖書においては罪は「贖われる」べきものであった
 - ヘブライ語の「赦す」は「覆う」の意
 - 神に対して、罪はいけにえによって贖われる
 - 人に対しては賠償責任（目には目）
- ◎ 無条件で人を赦すことを命じた律法はない
 - 赦しは神のわざで、人には求められていない
- ◎ イエス様は歴史上初めて無条件の赦しを命じられた

赦すものが赦される 18:23～35

そこで、天の国は次のようにたとえられる。

ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。決済し始めたところ、一万タラント（約6千億円）借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったもので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。

ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオン（約百万円）の借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。

仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。

『不届きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。

なぜ赦せないのか

- ◎ 赦す理由がない
 - 自分に被害を与えた相手をなぜ赦すのか？
- ◎ 赦すとまた同じことをする、あるいはさらに悪いことをしてくる
 - 自分のやったことの意味が分からない
- ◎ 罪は罰せられるべきである
 - そうでなければ不公平だ
- ◎ どうして自分だけが苦しまなければならないのか

イエス様の理論

- <大前提> 私たちはそもそも、天の父に対して、払いきれないほどの負債を負い、赦しきれないほどの過ちを犯している
- その大きさは、罪なき神の独り子が十字架で凄惨な死を遂げなければ払いきれないほどである
 - イエス・キリストの死に様を知ることは、私たちの負債の大きさを知ることである
- イエス・キリスト以上の苦しみはない

それでも残る疑問

- 私たちは無条件で赦されるのではないか
 - 「あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」 <エフェソ2:8>
- もちろん私たちが赦したから赦されるのではない。こんなに大きな罪を赦してもらったのだから、小さな罪を赦さすのは当然ではないか

弟子の掟

「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」